

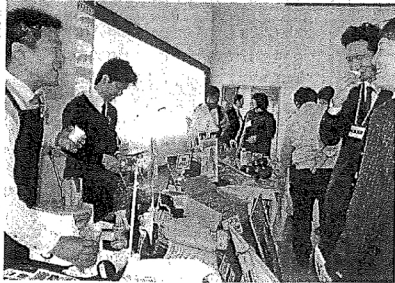
日本農業新聞

生食や甘さ注目
野菜品種見本市

青果育種研究会

市場関係者や種苗会社などでつくる青果育種研究会は6日、川崎市中央卸売市場北部市場で品種見本市を開いた。15社の種苗会社が新品種など約45品種を出品。甘いニンジン、生で食べやすいシユンギク、ピーマンなど消費者ニーズに対応した品種が集まった。

ニンジンの新品種をP



飲みやすいと好評だったニンジンのジュース(神奈川県川崎市宮前区の川崎市中央卸売市場で)

Rしたみかど協和(千葉県袖ケ浦市)は「エマ」と「クリスティーナ」を紹介。同社は「クリスティーナ」の糖度は7.9と従来(3、4)を上回る。青果、加工用として売り込んでいきたい」と話した。

渡辺農事(千葉県野田市)はニンジン「べにもり五寸」のジュースを並べた。試飲した参加者は「ニンジンだけとは思えないほど甘い」と驚いていた。同品種は全国的に入荷量が落ち込む2、3月に収穫できるのが特徴。ときわ研究場(埼玉県吉見町)はペランダなどでも手軽に作れるミニサイズのキュウリ「プチット」を紹介した。

研究会の阿比留みどり里事務局長は「味はもちろん、作りやすくて棚持ちの良い品種が目立つ」と新品種に期待した。